

170 日本刀の鰐（2023 年 6 月 22 日）

フランスにある日本美術のコレクションを所蔵する美術館の中には、穴の開いた小さな装飾品（写真右）を展示しているところがあります。何に使われていたものか、お分かりになるでしょうか。

これは、日本刀の鰐（つば）です。鰐とは、刀身¹のうち、上身（かみ）²と茎（なかご）³の間に付ける刀装具（とうそうぐ）⁴を指します（写真右の中にある円形の部分）。鰐は、刀剣を扱う際、手が上身へ滑らないように付けられました。また、刀を持ったときに、刀身とのバランスを取る役割も持っていました。時代の流れとともに、装飾性の高い芸術作品のような鰐が作られるようになりました。

パリのギメ東洋美術館が所蔵する鰐のコレクションの中から、いくつか例を見てみましょう。左下の写真の中央には、縦長の穴が空いています。この穴に茎を通しました。この穴の両脇に小さな穴が二つ空いているものもあります（写真右下）。両脇の穴には、小刀又は身だしなみを整えるための小道具を通しました。穴の周りには、美しい装飾が施されています。鰐のデザインでよく用いられたものは、植物、動物、人物、家紋です。様々な形があ



le *Tachi*, sabre japonais long dénommé *Sukezane no Koshisrae* (trésor national), 19^e, Tokyo National Museum
沃懸地葵紋蒔絵螺鈿打刀
(国宝 太刀 銘 助真の拵)
19 世紀 東京国立博物館蔵

出典：Colbase (<https://colbase.nich.go.jp>)



¹ 刀剣本体のこと

² 刀身の中で、鞘（さや）に収まる部分

³ 刀身の中で、日本刀を握る部分である柄（つか）に収まる部分

⁴ 刀剣を構成する装備

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

る西洋の剣のガードとは異なり、鐔は平面の金属に装飾が施されていることが分かります。

実は、私は、フランスの美術館で日本刀の鐔を見て、鐔にはこのような美しい装飾が施されていたことを知りました。日本には、名工と呼ばれた職人が作った貴重な刀が残されており、国宝や重要文化財に指定されているものもあります。日本の美術館で展示されるときには、鐔などの刀装具が外された状態で、刀身のみが展示されることがしばしばあります。鐔のみならず、柄⁵（つか）や鞘⁶（さや）にも美しい装飾が施されたものがあります。しかし、それらは主役ではなく、刀身の美しさが美術品としての価値を決めています。一方、ヨーロッパ人は、装飾性の美しい鐔に惹かれたことから、フランスには、かつてのフランス人コレクターが集めた鐔が残されているのではないかと考えられます。フランスにある日本美術のコレクションは、日本人にも日本美術の新たな発見を与えてくれました。



⁵ 日本刀を握って掴む部分

⁶ 刀身を収め、保護するための入れ物